

ルワンダ月報（２０２３年１月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

1. 内政・外政

- 2日、ルワンダは、コンゴ民主共和国の責任を負うことは受け入れないと、カガメ大統領は2023年の新年メッセージで述べた。
- 4日、ビルタ外務大臣、食糧安全保障イスラム機関（IOFS）特使とルワンダが当該機関のアフリカ会員になることに関して協議。
- 5日、コンゴ民主共和国東部の戦闘から逃れた難民計2061人が、11月13日からルワンダに入国。
- 10日、ムカバリサ下院議長は、王駐ルワンダ中華人民共和国大使と会談。二国間関係及び議会外交のさらなる強化について対話し、地域的、国際的な問題について意見交換をした。
- 11日、カガメ大統領が、隣国コンゴ民主共和国からの難民受入れはもはやできないと発言した後、政府はその発言を撤回、ルワンダには難民を追放・禁止する意図はないことを発表。
- 12日、在ルワンダ中国大使館における中国の新年会にビルタ外務大臣が出席。ルワンダと中国の関係は、1971年に関係が確立されて以来、偉大な友情へと発展し、両者の間で数え切れないほどのイニシアチブを生み出してきたと述べた。
- 12日、トルコのチャヴシュオール外相がキガリを訪問。一般協力、文化、科学・技術・イノベーションの3つの新しい協定が締結された。
- 16日、ビルタ外務大臣は、コモロ連合の首都モロニでドゥルカマル外務大臣と、多分野を網羅する協力協定に調印した。
- 16日、ルワンダ政府はコンゴ民主共和国東部から到着する避難民のためルバブ地区に緊急難民キャンプを設置。17日時点で670人のコンゴ（民）難民がいる。（The New Times）
- 19日、ルワンダ政府は、コンゴ民主共和国政府の1月18日の声明によるナイロビおよびルアンダ和平プロセスからの明らかな撤退に遺憾の意を表明。
- 23日、ドーハで予定されていた、コンゴ民主共和国のチセケディ大統領とルワンダのカガメ大統領の会談は、キャンセル。
- 24日、ルワンダは、隣国コンゴ民主共和国が、戦闘機を自国領土上空に飛行させ、3回目の領空侵犯を行ったと非難した。

- 24日、ワシントンD.C.の連邦裁判官は、「ホテルルワンダ」の主人公ポール・ルセサバジナ氏がルワンダに対して行った誘拐と拷問に関する訴えを棄却した。(KTPress)
- 25日、ンギレンテ首相は「アフリカへの食料供給：食料主権とレジリエンス」をテーマにセネガルにて開催される第2回農業・農産物サミットに参加。
- 25日、ルワンダ大学科学技術学部にアメリカ合衆国セント州立大学センターを開所。様々な分野における共同研究および学術プログラムの確立に貢献を目的とする。
- 26日、コンゴ共和国のデニ・サス＝ンゲソ大統領はプラトーの公邸でカガメ大統領特使としてのビルタ外務大臣と会見。
- 28日、ビルタ外務大臣はコンゴ民主共和国政府当局がルアンダ合意を放棄したと非難。(The Standard)

2. 開発協力

- 6日、財務・経済計画大臣と在ルワンダフランス開発庁は、デジタル化によるルワンダ公共サービスの改善と革新的技術支援を目的としたプロジェクトに対する3700万ユーロの融資と120万ユーロの補助金に調印。
- 19日、国連世界食糧計画（WFP）は、ルワンダの全5キャンプに住む11万3500人の難民に、現金給付の形で救命食糧支援と社会・行動変革の取り組みを含む栄養不良の治療を提供するための米国からの720万米ドルの寄付を歓迎。
- 30日、UNHCR ルワンダは、カナダへの経済的移住の難民選出を開始。

3. 経済

- 13日、ルワンダとバングラデシュは、両国の貿易関係の強化と観光促進の一環として二国間航空サービス協定に署名。
- 21日、アフリカ開発銀行の年2回の報告書は、ルワンダの経済成長は、2023年に7.8%、2024年には8.1%と予測。(KTPress)
- 25日、カガメ大統領は、国際通貨基金（IMF）のゲオルギエバ専務理事を迎え、進行中の実りあるパートナーシップについて協議。レジリエンスとサステナビリティトラストのパイロット国の一つとして、ルワンダは、気候変動イニシアティブを支援するため、3億1900万ドルを利用する予定である。
- 26日、国際通貨基金（IMF）は、ルワンダの経済成長率が2023年6.2%、2024年は7.5%に加速すると予測していると、キガリを訪問したゲオルギエヴァ専務理事が述べた。(Reuters)

- 28日、ルワンダの財政パフォーマンスの改善と堅調な経済成長は、財政と債務リスクに対する脆弱性を緩和したと、信用格付け会社スタンダード&プアーズ（S&P）の最新の評価。

以上